様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	特別支援教育専攻／大谷博俊

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

特別支援教育においては、障害特性の理解に基づく個に応じた指導が重要となる。そのために、学生への授業では、
①障害特性に基づく児童生徒の理解、並びにそれに応じた指導方法としての授業力を想定し、授業内容として設定したい。
②またこれらを学生が身に付けるためには、演習が不可欠であろうと思われるので、計画的に種々の演習を取り入れ、実践力を意識した授業方法を重視したい。
③そして、評価にあたっては、授業目標に沿って、児童生徒理解の側面、授業力の側面を各々評価し、厳格化を図りたい。

2．点検・評価

後期の授業において、
①学部の授業では、知的障害者を対象とした、「遊びの指導」、「生活単元学習」の授業づくりを設定し、ロマン・プロセス法（太田,2010）に即した演習課題を組み入れた。また、大学院の授業では、鳴門教育大学附属特別支援学校と連携し、知的障害者を対象とした進路学習に係る演習を実施した。
②学部の授業で実施した、知的障害者を対象とした授業づくりでは、5回の模擬授業を設定した。授業では、指導案の読み取り、参観、観察記録の作成、分析、批評という一連の展開を構造化した。大学院の授業で実施した、知的障害者を対象とした進路学習に係る演習では、鳴門教育大学附属特別支援学校高等部の生徒が、「１日大学生」として本学を訪れた際に、大学院の授業へ参加できるように授業計画を立て、実践的な演習の機会とした。
③学部の授業では、受講生に、予習した内容と講義で学んだ内容を比較させ、自身の学習の深化を記述するよう求め、学修を評価した。大学院の授業では、受講生の演習後の学びを確認するために、ライブキャンパスのフォーラム機能を活用し、記事の投稿を求め、演習後の学びの深化を評価した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

学生の特別支援教育に関する課題意識を高め、理解を深めるために学生間の討議や模擬授業など演習の要素を取り入れ、展開を工夫する。また、講義には視聴覚機器を積極的に活用し、学生の発表にも視聴覚機器を取り入れるよう指導していきたい。

2．点検・評価

教職実践演習（特別支援教育専修）の後期の「教科・保育内容等の指導に関する応用的演習」では、鳴門教育大学附属特別支援学校と連携し、「生活単元学習」に関する授業研究を設定した。受講生には、自身の指導場面を分析し、それらに基づく成果と課題について、液晶プロジェクターを使用してプレゼンテーションするように求めた。また、受講生には「ストップ・アンド・モーション」の技法を説明し、発表に使用するように求めた。大学院生の就職支援のために、各人の保有する免許を把握した上で、対応した学校種に係る採用情報を「研究者人材データベース（JREC-IN）」で収集し、積極的に発信した。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

特別支援教育に関わって、特別支援教育実践（臨床）に沿った研究を行っていきたい。具体的には、障害のある子どもの進路指導に関わっての移行支援や就労などに視点をあて、これまでの研究を継続し、その成果を発表する。

2．点検・評価

科学研究費補助事業の助成を受け、進めてきた進路指導困難生徒に関する一連の研究をまとめているところである。主な結果は、次の通りである。①知的障害特別支援学校の教員が有する進路指導困難事例の特徴が明らかになった。具体的には、生徒の自己理解の不足などの、生徒に関わる課題、及び子ども(生徒)に対する過大な評価などの、保護者に関わる課題に大別された。②知的障害特別支援学校の進路指導における教員の保護者に対する意識が明らかになった。因子分析の結果、教員の保護者に対する意識には、「共同の確信」、「指導に係る要望・主張」、「対応への方策」といった複数の側面があることが示された。③調査対象とした知的障害特別支援学校高等部に在籍する中度及び軽度知的障害のある生徒は、53.2%であり、最も多くを占めていた。この結果は、特別支援教育総合研究所の全国調査と同様の傾向であり、高等部の特徴的な実態が明らかとなった。また、障害程度と進路指導との関連性が推測されるため、現在分析中である。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

基礎・臨床系教育部の構成員として部会議に出席すると共に、各種委員として大学の運営に貢献したいと考えている。

2. 点検・評価

基礎・臨床系教育部の構成員として、毎月の部会議に出席した。また、附属学校運営委員会の委員、大学機関別認証評価に係るワーキング委員、教職実践演習に係る実行委員会の委員を務めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

特別支援学校における教育実践に関する協議・検討等の交流活動を活発に行いたい。特に研究領域として関心のある後期中等教育段階にある障害児の進路指導・職業教育・キャリア教育に視点をあて、連携することができればと考えている。

2. 点検・評価

鳴門教育大学附属特別支援学校と連携し、大学院の授業、「特別支援教育指導特論演習」、及び学部の授業、「教職実践演習（特別支援教育専修）」を行った。
徳島県教育委員会の依頼を受け、とくしま・すだちサポート会議の委員長を務め、とくしま特別支援学校技能検定（12月24日、25日、27日）の運営に協力した。また、平成25年度徳島県教育委員会免許法認定講習の講師を務めた。
徳島県立鴨島支援学校から依頼を受け、学校関係者評価委員会の委員を務め、小学部・中学部・高等部の一貫したキャリア教育について助言を行った。
徳島県より依頼を受け、徳島県発達障害者支援体制整備検討委員会の委員を務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）